

学修成果

理念 (建学の精神)	領域(4)	要素(12)	細目	レベルS 卒業後の医師(研修修了後)レベル	レベルA 卒業時(6年生)レベル	レベルB 臨床実習開始前(4年生)レベル	レベルC 2年生修了レベル
社会の福祉への奉仕	関心・意欲・態度	安心・安全な医療に強い使命感と自律性を有し、優れた協調精神を持ってチーム医療の一員として社会の福祉に奉仕できる良医となるべき素養を有している	社会福祉	地域保健、福祉および介護システムを理解し、地域連携を図ることができる	健康および医療に貢献するものとして必要な幅広い教養を身に付けている	専門職としての社会における立場および役割を説明できる	医療専門職としての社会における立場および役割を理解している
			チーム医療(多職種連携)	患者やその家族の課題に対して、他の医療従事者と連携・協働して最適なアプローチを模索し、常に良質な医療を提供できる	医師・看護師・薬剤師・理学療法士・作業療法士など医療従事者全体で協働し、チーム医療を提供できる	学科混成チームでの仮想症例検討等を通じて、各医療専門職の専門性を活かしたチーム医療学修を成立させることができる	様々な専門分野の協力にもとづく医療の多角的アプローチを理解している
			安心な社会と医療	医療の24時間対応と医師の働き方(ワークライフバランス)の実現に取り組むことができる	適切な医療へのかかりやすさ(accessibility)の重要性と時間外診療を担当する医師の持つべき能力を説明できる	院内や地域の連携の重要性を理解している	安心な社会に対する国民の期待を理解している
	思考・判断	医療を取り巻く社会経済的動向を把握し、地域医療の向上に貢献するとともに、地域の保健・医療・福祉・介護および行政等と連携協力できる	地域医療(兵庫県の医療を含む)	本邦の医療政策を理解し、患者の社会的背景に応じた適切な医療を提供できる 兵庫県の保健・医療・福祉・介護および行政における問題解決方法を検討できる	地域医療において適切な診断のアセスメントを立て治療計画を組むことができる 兵庫県の保健・医療を体験し問題を挙げることができる	家庭医およびプライマリ・ケア医として必要な総合診療に必要な具体的な知識、および各種の健康指導や医療支援に必要な知識を修得している 兵庫県の保健・医療・福祉・介護および行政に関する知識を修得し、諸問題を議論することができる	医療は社会経済活動の一環であることを理解し、医療を社会問題の対象として捉えることが出来る 兵庫県の保健・医療・福祉・介護および行政は実際どのように行われているのか、どのような問題が生じているかを理解している
			プライマリケア	プライマリケアを実践できる	プライマリケアにおいて必要な知識と技術を有している	プライマリケアにおいて必要な知識と技術を提示できる	プライマリケアにおける医師の役割と重要性を理解している
	技能・表現	人文社会科学を含む幅の広い教養と国際性を身につけ、海外からの情報を積極的に利用できる語学力を有し、国際保健に貢献できる	幅広い教養	医療人類学、進化医学など幅広い教養を身につけ、ライフスタイル変容における行動科学的アプローチを行うことができる	他者に対して診療の場で文化的・社会的な理解を示し、傾聴、理解、支持的態度を示すことができる	模擬的な状況下で文化的・社会的な理解を示し、傾聴できる	医療人類学、進化医学を含め文化的・社会的な知識を有する
			語学力	世界的に注目されている医学的情報を入手し、海外の研究者・医療関係者と実践的なコミュニケーションが取れる 外国人患者の英語での診察ができる	英文診断書を理解し、英語で最低限の診察ができる 国際論文の内容が理解できる 英語での会話ができる	世界的に注目されている医学的情報を入手し、専門的な医学用語[英語]を理解している	一般的な語学力を有する
			国際保健	医療のない貧困地区における救済活動や、世界の健康の向上及び増進のため国際機関などの活動に協力できる	世界の健康の向上及び増進に努める国際機関などの活動を説明できる	医療のない貧困地区の実態・問題点を説明できる	諸外国の医療に興味を持ち、多様な人々と交流できる
	知識・理解	人体や疾病に影響を与える社会的な要因や背景について理解し、支援扶助の社会的仕組みについて理解している	社会と医療	社会的な事業(健診、夜間休日診療所、予防接種など)に参画し、医療政策に意見を述べるができる 過剰な医療の提供を減らすことができ、人体や疾病に影響を与える社会的な要因や背景の改善に携わることができる	人体や疾病に影響を与える因子、ストレス、ICTなど社会の変化を説明できる	保健行政・医療政策・介護保険制度を理解している 国民医療費を説明できる	社会の問題、医療、医療経済に関心を持ち、健康、社会福祉に関する問題を理解している ボランティア活動を理解し参加する

学修成果

理念 (建学の精神)	領域(4)	要素(12)	細目	レベルS 卒業後の医師(研修修了後)レベル	レベルA 卒業時(6年生)レベル	レベルB 臨床実習開始前(4年生)レベル	レベルC 2年生修了レベル
人間への深い愛	関心・意欲・態度	豊かな人間性と生命の尊厳についての深い認識を有し、人の命と健康を守り、社会の福祉に奉仕する医師としての職責を自覚し、地域ならびに母校への帰属意識を有している	職責の自覚(プロフェッショナリズム)	豊かな人間性を有し、プロフェッショナリズムを実践し、同僚後輩の模範となることができる	自己を評価・管理し、自分の行動に責任をもって他者に誠実に対応できる	他者からの評価を受け入れ、自己に反映できる	品位と礼節を保ち、自分の行動に対して責任を持つことを理解している
			健康社会の推進	生命の尊厳について深い認識を有し、健康な社会づくりに寄与することができる	人の命と健康および生活の質を守るため、患者や一般の方にわかりやすく行動変容を促すことができる	人の命と健康および生活の質を守ることを理解し、社会の福祉について理解している	健康を害する外的要因について理解している(タバコ、アルコール、熱中症、薬物、ハラスメントなど)
			帰属意識	それぞれの地域に根をおろし活動するとともに、兵庫医科大学卒業を誇りに感じ、同窓会活動にも参加する	兵庫県の特徴を理解し、基礎・臨床医学の分野における兵庫医科大学の業績を説明できる	基礎・臨床医学の分野における兵庫医科大学の業績を理解している	兵庫医科大学の歴史と伝統を理解している
	思考・判断	患者およびその家族の人権を守り、医師の義務や医療倫理を遵守するとともに、患者の安全を最優先し、患者の権利と生命の尊厳を守ることができる	生命倫理	生命倫理に沿った行動ができる	生命倫理に沿った医師の行動を説明できる	医師の義務や医療倫理について理解している	個人情報を含む患者の権利の概念・定義を理解している
			患者の権利と生命の尊厳	生と死、生命の尊厳について省察できる エンド・オブ・ライフケア、アドバンスド・ケア・プランニングを多職種とともに実践できる 患者のニーズを適切に把握し、それに応じた情報を提供することができる	患者やその家族と生命の尊厳について話すことができ、患者の権利を説明できる エンド・オブ・ライフケア、アドバンスド・ケア・プランニングを指導医とともに実践できる 患者のニーズを適切に把握することができる	生と死について考え、患者の権利を説明できる エンド・オブ・ライフケア、アドバンスド・ケア・プランニングについて理解している 患者のニーズを理解することができる	命の大切さを知り、自分や他人を傷つけない よく生きることの重要性を理解している
	技能・表現	人間の多様性を理解し、周囲の人々への温かい眼差しを持ち、共感できる豊かなコミュニケーション能力を有している	多様性の理解	他者を理解し、お互いの立場を尊重した人間関係を構築して、社会の様々な人々や団体と積極的に関わることができる	行動科学の知識を実践し、他者の、文化、人種、年齢、社会経済的状況、性別、性嗜好、信仰、障害、その他の多様性に配慮した対応が可能で、学外の様々な人々や団体と積極的に関わることができる	行動科学と臨床医学の関りを理解し、患者と、共感、敬意、思いやりをもって接することができ、学内の様々な人々や団体と積極的に関わることができる	人間の心理・行動科学の基本、ならびに患者および家族の社会的背景を理解し、同級生らと積極的に関わり、目上の人を尊敬し、コミュニケーションが取れる ハラスメントをしない
			医療の均てん化	医療資源の乏しい地域において医療を実践できる	医療資源の乏しい地域の医療の経験を通じて地域偏在、診療科偏在について考え、意見を述べる ことができる	地域偏在、診療科偏在の課題を抱える地域の住民との交流を通じて、考え・意見を述べる ことができる	医療資源偏在の現状について理解している
			コミュニケーション能力	患者およびその家族と適切なコミュニケーションが 取れる 職場環境において他の医療従事者と適切なコミュニケーションが取れる	適切な医療コミュニケーションを実践できる	他者の立場を考えて接することができる	他者の気持ちを考えることができ、挨拶も積極的 にできる
	知識・理解	患者の痛み、苦しみ、悩みと機能障害を含め様々なハンディキャップを理解し、常に患者中心の立場に立つことができる	ハンディキャップ	様々な病気や障がいを持つ患者の気持ちや背景を理解し、支援ができる	様々な病気や障がいを持つ患者の気持ちや背景を含めて理解している	様々な病気や障がいを持つ患者の気持ちを含めて理解している	様々な病気や障がいがあることを理解している
			患者の痛み	難治性の痛みを含め、患者の痛み、苦しみ、悩みに対して全人的に対応できる	患者の痛み、苦しみ、悩みに対する治療・対応を行うとともに難治性の痛みの存在を知り、患者とコミュニケーションが取れる	患者の痛み、苦しみ、悩みと疾病の関係を説明できる 痛みの基礎的メカニズムを理解している	患者の痛み、苦しみ、悩みを知る

学修成果

理念 (建学の精神)	領域(4)	要素(12)	細目	レベルS 卒業後の医師(研修修了後)レベル	レベルA 卒業時(6年生)レベル	レベルB 臨床実習開始前(4年生)レベル	レベルC 2年生修了レベル
人間への幅の広い科学的理解	関心・意欲・態度	医学・医療の進歩と改善に資するために研究を遂行する意欲と生涯にわたり自己研鑽を続ける態度を有し、同僚・後輩への教育に労を惜しまない	科学的探究心	基礎・臨床を問わず、研究成果を学外に発信し、学会等で議論できる	臨床場における問題点を見つけ出し探求するための手段・道筋を説明できる	基礎・臨床における研究成果の内容を把握している	医学的な研究について基礎的な知識を持っている
			生涯学習	生涯にわたり医学の進歩に応じて最先端の知識と技術を能動的に学修できる	臨床医学の知識、技術、研究成果を能動的に学修できる	基礎医学の知識、技術、研究成果を能動的に学修できる	自学自習の態度を身につけ、能動的な学修ができる
			教育能力	指導医、専攻医、レジデント、研修医、学生へとそれぞれ後輩に指導・助言ができる	臨床医学の分野で同級生間で教えあい、相互に学修成果を高めることができる	基礎医学の分野で同級生間で教えあい、相互に学修成果を高めることができる	友人を尊重し、互いに教えあう態度を養成できる
	思考・判断	患者の持つ様々な問題点を科学的かつ統合的に捉え、的確に判断し解決できる応用力と問題解決能力を有している	臨床推論	病歴聴取・身体所見・検査所見に加えて臨床疫学、医学統計学を活用して診療計画を立て、臨床推論を実践できる	病歴聴取・身体所見から鑑別診断を適切に実行し、臨床推論を行える	エビデンスに基づいた臨床推論のためのデータを理解している	エビデンスと臨床推論の重要性について理解している
			問題解決能力	患者の病の解釈、感情、期待、問題点について国際論文を含めた情報収集ができ、それをもとに患者の診断と治療を実践できる	患者の病の解釈、感情、期待、問題点について文献などで情報収集ができ、それをもとに患者の診断と治療計画を立案できる	患者の病の解釈、感情、期待、問題点を列挙し、解決策を考えることができる	患者の病の解釈、感情、期待、問題点を認識できる
	技能・表現	基本的な診察法、医療技術、救命救急法を修得しており、全身を総合的に診療するための実践的能力、ならびに医療安全と危機管理の能力を有している	基本的な診察法	診察法について指導ができる	一人で網羅的に系統立てて診察でき、診療録を適切に記載できる	診察で用いる器具の名称が分かり、使用できる	診察を見学し、内容を理解できる
			医療技術・検査	基本的な臨床手技の方法や種々の検査法を指導できる	基本的な臨床手技の方法ならびに検査を実施できる	基本的な臨床手技の方法や検査法を説明できる	基本的な臨床手技の方法や検査法があることを知っている
			救命救急	ACLSを実施し、指導できる 緊急性の高い疾患に応急措置を行い、必要な対応、移送ができる	ACLSとBLSの違いを理解し、ACLSに必要な蘇生法を実施できる 緊急性の高い疾患について迅速に判断できる	BLSを実践できる(OSCE) 緊急性の高い疾患を列挙できる	BLSについて理解している
			予防医学と健康増進	健診の結果説明、疾病予防を的確に指導できる 患者の行動変容を促す指導ができる	健診の結果を理解し、疾病予防対策を策定し、説明できる	生活習慣病の発症にかかわる因子を理解し、説明できる	生活習慣病と疾病予防の重要性を理解している
			医療安全	医療安全対策、感染対策に主体的に取り組み、管理ができる	医療安全対策、感染対策を遵守できる	医療現場における様々なリスクを説明できる	ヒューマン・エラーの仕組み、ヒトの特性を理解し、説明できる
	知識・理解	人体の構造、機能および異常や疾病とそれらの原因、病態、診断、治療に関する基本的な知識ならびに様々な疾病に対する適切な治療法を身につけている	人体の構造・機能	人体構造・機能を理解したうえで、最適な医療を実践できる	人体構造・機能を理解したうえで、個々の症例と病態を把握できる	人体構造・機能と疾病の関わりを説明できる	人体の構造の特性、機能との関連を理解している
			原因・病態	各疾患の病因・病態の知識をもとに、適切な医療を実践できる	頻度や重要性の高い疾患の病因・病態の知識をもとに、臨床に応用できる医療を実践する素養を身につけている	頻度や重要性の高い疾患の病因・病態を理解している	疾患に繋がる病態生理の基本を理解している
			診断・治療	頻度や重要性の高い疾患について、適切に診断・治療できる	頻度や重要性の高い疾患について、適切に診断し、治療方針が立案できる	頻度や重要性の高い疾患について、診断、治療の知識がある	頻度や重要性の高い疾患を知っている